

中学生の動機づけプロフィールと社会的比較 および教師に対する信頼感との関連

川那部隆司 (立命館大学)

キーワード：動機づけ，社会的比較，教師信頼感

問題と目的

自己決定理論に基づく動機づけの研究においては、近年、各調整スタイルの個人差が注目されつつある。多くの研究が、学年の進行に伴い、自律的動機づけが低下し、統制的動機づけが高まる傾向を指摘している。一方で、岡田 (2010) や西村・櫻井 (2013) では、中学校段階においては、自律的動機づけと統制的動機づけの関連が強まる傾向が示されている。こうした、いわば両極に位置づけられるような動機づけが高い、あるいは低いプロフィールが見られる原因として、本研究では、社会的比較行動と教師への信頼感に着目し、これらと動機づけプロフィールとの関連を調べた。

方 法

調査対象者

公立中学校1校の2年生181名を対象とした。全ての質問に回答した154名を分析対象とした。

質問紙

自律的学習動機づけ尺度 (西村・河村・櫻井, 2011), 社会的比較行動尺度 (外山, 2007), 生徒の教師に対する信頼感尺度 (以下 STT 尺度, 中井・庄司, 2008) を用いた。STT 尺度は、3 因子 31 項目から構成されるが、調査協力校と相談し、各因子の因子負荷量上位 5 項目 (計 15 項目) を使用した。全て 4 件法で回答を求めた。

手続き

フェイスシートと上記尺度から構成される冊子を作成し、学級ごとに担任教員が調査の目的、注意点の説明も含めて実施した。所要時間は 15 分程度であった。

結果と考察

各尺度の分析

自律的動機づけ尺度は、先行研究にしたがって、内的調整、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整の4因子に分類した。社会的比較行動尺度も先行研究にしたがい、学習比較と遂行比較の2因子に分類した。STT 尺度は元の尺度から改変して使用したため探索的因子分析 (最尤法, プロマックス回転) を行った。先行研究と同じまとまりがみられたため、先行研究に倣い、安心感、不信、役割推蔽評価の3因子とした。

動機づけプロフィールの分析

自律的学習動機づけ尺度の4因子の各得点に基づき、非階層的クラスター分析 (Ward 法) を行っ

た。各クラスターの生徒数の割合から4クラスターを採用し、外発的動機づけ群、比較優位群、高動機づけ群、自律的動機づけ群と命名した。先行研究とは異なり、低動機づけ群が見出されず、統制的動機づけ群に該当する群として外発的動機づけ群と比較優位群の2群が見出された。

Table1 動機づけプロフィールの分析結果

		内的調整		同一化的調整		取り入れ的調整		外的調整	
	N (%)	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
外発的動機づけ群	27 (17.5)	1.30	.33	2.48	.68	1.79	.55	2.87	.63
比較優位群	30 (19.5)	2.29	.56	2.43	.58	2.73	.70	2.17	.44
高動機づけ群	46 (29.9)	2.65	.51	3.72	.28	3.03	.45	2.85	.50
自律的動機づけ群	51 (33.1)	2.26	.55	3.33	.42	1.93	.44	1.89	.44
	154 (100)	2.21	.68	3.12	.71	2.39	.74	2.40	.66

社会的比較行動尺度、STT 尺度との関連

各尺度と動機づけプロフィールとの関連について二要因混合分散分析を行った。高動機づけ群が学習のプロセスと結果の両方を比較しているのに対し、比較優位群は学習の結果を特に意識していることが示された。また、自律的動機づけ群は教師に対し、教師としての役割遂行に対する評価は高いものの、安心感はずしも高くなかった。これらの結果から、友人との関係や教師に対する評価が、中学生の動機づけプロフィールを規定する要因となっていることが示唆された。

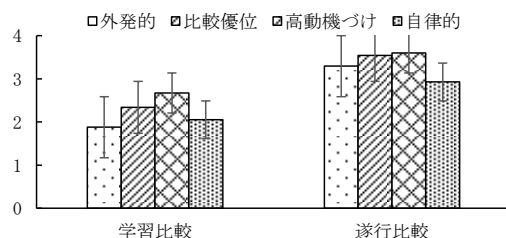


Figure1 各群における社会的比較行動尺度の得点

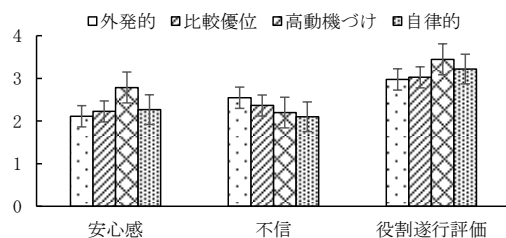


Figure2 各群におけるSTT尺度の得点